【事業実績】

北海道博物館を中核館とする「北のミュージアム活性化実行委員会」として、以下の事業を実施した。

■ユニバーサル・ミュージアムに対応した多様な博物館活動促進事業

【１】研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりにむけて」の開催

・令和２年（2020 年）２月 13 日(木)、北海道博物館を会場にして、博物館関係者をはじめとして、社会教育・生涯教育施設職員、教育関係者を主な対象として、博物館を利用する際にバリアとなっていることは何か、必要とされている対応や接遇など、視覚障がい者に対応した博物館サービスを考える研修会を実施した。参加者は 40 名。

《研修会内容》

・基調講演「視覚障がい者に対して博物館ができること、博物館に望むこと」

講師：鳥山由子　氏【元筑波大学教授（視覚障害教育）】

・実技研修「視覚障がい者を迎えるうえでの介助方法や情報の伝え方」

講師：千明和紀　氏【北海道札幌視覚支援学校教諭】

鳥羽晶幸　氏【北海道札幌視覚支援学校教諭】

自由見学「さわれる博物館キット」

講師を交え、北海道博物館や北海道開拓の村で製作した「さわれる博物館キット」を自由に見学・体験してもらうことで、視覚障がい者とのより深いコミュニケーションのあり方を考えるとともに、本事業において開発を進めている「さわれる博物館キット」を実際に使用してもらうことで、キットの改善・改良に向けた意見を使用者から聴取する機会とした。

千明氏・鳥羽氏（札幌視覚支援学校教諭）による
視覚に障がいのある来館者への接遇の実技研修

開発中の体験用教材に実際に触れてもらう

【成果及び今後の課題】

道内博物館等施設の多くは、設備面や人員面での制約から、積極的にバリアフリーな博物館活動を展開し得ていない現状にある。ただ、本事業を通じて、博物館等施設職員と利用者との直接的な交流や、資料に触れる、モノを作るといった、利用者にとって能動的な博物館体験こそ、バリアフリーな博物館活動の展開にとって最も重要な要素であることが改めて明らかになった。今後、博物館を拠点とした地域活性化に向けて、今回の取組をモデルケースとして、道内各地で博物館等施設側と利用者側との「ふれあい」の場を広げていく必要がある。

研修会全体としては、参加者の満足度が高く、「今後のためになった（参考になった）」が回収した 34 枚中 33 枚であった。基調講演では他館の実例を多くあげられたこと、実技研修では実演を交えながらの説明であったことから、「よりリアルに理解を深めることができました」という声も多かった。また、今後に向けては、「ハード面の整備は時間がかかりそうだが、ソフト面の対応に取り組んでいきたい」という声があるなど、視覚障がい者へ対応に対する意識の高まりや、各博物館等施設での今後の取組への利活用に前向きな意見が多く見られた。